



とくしゅう  
特集

うま こみんか うま い ちから まな  
**「馬と古民家でくらし、馬から生きる力を学ぶ」**  
 かまいししはしのちょう さんりくこましゃ ほうもん  
**釜石市橋野町の三陸駒舎を訪問**

1月12日(日) こどもエコクラブサポーターズミーティング※1を開催しました。SDGs※2を楽しく体験しながら理解し、視野を広げて今後の活動に繋げていくために、2030SDGsカードゲームを行いました。また、濱塚有史さん(特定非営利活動法人 盛岡YMCA)と黍原豊さん(三陸駒舎)により、事例発表が行われました。

今回のこどもエコクラブNEWSでは、事例発表があったうちの三陸駒舎の活動の様子取材してきましたので、特集として紹介します。

※1: いわてこどもエコクラブサポーターズミーティングとは

こどもエコクラブへの登録を問わず、岩手県内で環境活動を行っている団体・個人等が集まり、岩手の事例や子どもたちとの関わりを大事にしながら、情報・意見交換を行っています。

※2: SDGs (持続可能な開発目標) とは、

世界が共有した、2030年までにあるべき世界の姿です。17の大きな目標と、それらを達成するための具体的な169のターゲットで構成され、「誰ひとり取り残さない」社会を目指すものです。



さんりくこましゃ かまいししはしのちょう どうろ ぞ どうろ  
三陸駒舎は、釜石市橋野町の道路沿いにありました。道路  
へだ かわがわ ちゅうしゃじょう やまがわ こみんか  
を隔てて、川側が駐車場になっていて、山側に古民家とお  
うま うんどうじょう だいしょう どう しん  
馬さんのパドック（運動場）がありました。大小3頭（新  
い どう うま ほ くさ た  
入りが1頭）の馬がのんびりと干し草を食べていました。

## こみんかたいけん ■古民家体験

こみんか きびはらけ い ぐち  
古民家の黍原家に「おじゃまします」。なんと、入り口のド  
じどう おも あ  
アは自動ドアです。ドアにひもと重しがついていて、開けたド  
はな おも し  
アを離すと、重しのためスルスルと閉まるしくみです。



なか は きびはら おくさま り え ちょうじよ  
中に入ると、黍原さんと奥様の理枝さんと長女ゆらいちゃん  
おやこ かた ま  
の親子とボランティアの方が待っていただきました。  
むかし つく つ おお か ぐ かこ あたた へ や  
昔の作り付けの大きな家具に囲まれた暖かなお部屋でし  
た。

さんりくこましゃ ちく ねん こみんか なんぶまが や きよてん うま  
三陸駒舎では築90年の古民家「南部曲り家」を拠点に、馬と  
とも く ちいきぶんか さいせい うま く  
共に暮らす地域文化を再生し、馬との暮らしをベースにしたエ

コッーリズムや放<sup>ほうかご</sup>課<sup>うまたいけん</sup>後<sup>あら</sup>のお馬<sup>しごと</sup>体<sup>おこ</sup>験<sup>だれ</sup>など新<sup>あら</sup>たな仕<sup>しごと</sup>事<sup>おこ</sup>を興<sup>だれ</sup>し、誰<sup>だれ</sup>も  
が心<sup>こころ</sup>豊<sup>ゆた</sup>かに過<sup>す</sup>ごすことのできる持<sup>じ</sup>続<sup>ぞく</sup>可<sup>かの</sup>能<sup>のう</sup>なコ<sup>こ</sup>ミ<sup>こ</sup>ニ<sup>こ</sup>テ<sup>こ</sup>ィ<sup>こ</sup>ー<sup>こ</sup>の  
形<sup>けい</sup>成<sup>せい</sup>を指<sup>め</sup>指<sup>ざ</sup>していま<sup>か</sup>す。釜<sup>か</sup>石<sup>まい</sup>市<sup>し</sup>や地<sup>ち</sup>域<sup>いき</sup>の方<sup>か</sup>々<sup>た</sup>、首<sup>しゅ</sup>都<sup>と</sup>圏<sup>けん</sup>サ<sup>さ</sup>ポ<sup>さ</sup>ー<sup>さ</sup>タ  
一<sup>れん</sup>など<sup>けい</sup>と連<sup>じ</sup>携<sup>ぎょう</sup>して事<sup>てん</sup>業<sup>かい</sup>を展<sup>ねん</sup>開<sup>ねん</sup>し、2017年<sup>しょう</sup>の年<sup>が</sup>末<sup>い</sup>より障<sup>しょう</sup>害<sup>がい</sup>児<sup>じ</sup>を  
対<sup>たい</sup>象<sup>しょう</sup>とし<sup>たい</sup>た児<sup>じ</sup>童<sup>どう</sup>発<sup>は</sup>達<sup>たつ</sup>支<sup>し</sup>援<sup>えん</sup>・放<sup>ほう</sup>課<sup>か</sup>後<sup>ご</sup>等<sup>とう</sup>デ<sup>てい</sup>ィ<sup>い</sup>サ<sup>さ</sup>ー<sup>さ</sup>ビ<sup>び</sup>ス<sup>す</sup>も開<sup>かい</sup>始<sup>し</sup>ま  
した。お<sup>は</sup>話<sup>なし</sup>が終<sup>お</sup>わ<sup>わ</sup>ったと<sup>ほう</sup>ころで、<sup>か</sup>「放<sup>ほう</sup>課<sup>か</sup>後<sup>ご</sup>のお<sup>う</sup>馬<sup>またい</sup>体<sup>けん</sup>験<sup>けん</sup>」に<sup>や</sup>  
っ<sup>く</sup>て<sup>り</sup>きた、栗<sup>くり</sup>澤<sup>さわ</sup>桂<sup>けい</sup>人<sup>いと</sup>く<sup>こ</sup>ん<sup>え</sup>の<sup>き</sup>声<sup>こゑ</sup>が聞<sup>き</sup>こ<sup>え</sup>ま<sup>し</sup>た。

## ■放<sup>ほう</sup>課<sup>か</sup>後<sup>ご</sup>のお<sup>う</sup>馬<sup>またい</sup>体<sup>けん</sup>験<sup>けん</sup>



さあ～みんな<sup>う</sup>で、お<sup>ま</sup>馬<sup>さん</sup>さん<sup>ぼ</sup>と<sup>そ</sup>お<sup>そ</sup>散<sup>そ</sup>歩<sup>と</sup>する<sup>と</sup>た<sup>と</sup>め、外<sup>そと</sup>に<sup>そと</sup>で<sup>そと</sup>ま<sup>そと</sup>し<sup>そと</sup>よ  
う。桂<sup>けい</sup>人<sup>いと</sup>く<sup>こ</sup>ん<sup>え</sup>は<sup>き</sup>ゆ<sup>き</sup>ら<sup>き</sup>い<sup>き</sup>ち<sup>き</sup>ゃ<sup>き</sup>ん<sup>き</sup>と<sup>き</sup>ト<sup>き</sup>ラ<sup>き</sup>ン<sup>き</sup>ポ<sup>き</sup>リ<sup>き</sup>ン<sup>き</sup>で<sup>き</sup>準<sup>き</sup>備<sup>き</sup>運<sup>き</sup>動<sup>き</sup>。黍<sup>じゅん</sup>原<sup>びう</sup>さん<sup>ん</sup>は、パ<sup>じゅん</sup>ド<sup>びう</sup>ック<sup>ん</sup>か<sup>ん</sup>ら、3<sup>き</sup>頭<sup>び</sup>の<sup>ん</sup>馬<sup>どう</sup>を<sup>き</sup>南<sup>き</sup>部<sup>び</sup>曲<sup>ん</sup>り<sup>ん</sup>家<sup>ん</sup>の<sup>き</sup>母<sup>き</sup>屋<sup>び</sup>につ<sup>き</sup>いて  
る<sup>とう</sup>馬<sup>う</sup>小<sup>ま</sup>屋<sup>な</sup>に<sup>な</sup>ん<sup>ぶ</sup>ぶ<sup>ま</sup>が<sup>や</sup>お<sup>お</sup>も<sup>も</sup>や  
る<sup>う</sup>馬<sup>ま</sup>小<sup>こ</sup>屋<sup>や</sup>に<sup>つ</sup>連<sup>つ</sup>れ<sup>つ</sup>て<sup>つ</sup>き<sup>つ</sup>ま<sup>つ</sup>し<sup>つ</sup>た。桂<sup>けい</sup>人<sup>いと</sup>く<sup>こ</sup>ん<sup>え</sup>の<sup>の</sup>乗<sup>う</sup>る<sup>ま</sup>馬<sup>ま</sup>が<sup>の</sup>用<sup>よう</sup>意<sup>い</sup>さ<sup>い</sup>れ<sup>い</sup>ま<sup>い</sup>し<sup>い</sup>た。



り え けいと さんぽ ばぐ  
理枝さんと桂人くんがお散歩のために馬具をそろえます。ま

ず、ちょっと餌をあげます（干し草です）。そして、ブラッシ

ングをして、体 のゴミを取ってあげます。桂人くんは台に登っ

てゴシゴシ、たてがみには「くし」をとおしてあげます。次に

はんたいがわ まわ おな  
反対側に回って同じようにします。

ばぐ じゅんじょ せなか  
いよいよ馬具をつけます。順序があります。まず、背中に、

しための けいぼうま ばんごう  
下布をかぶせて、ゼッケン（競馬馬などで番号がかいてあるも

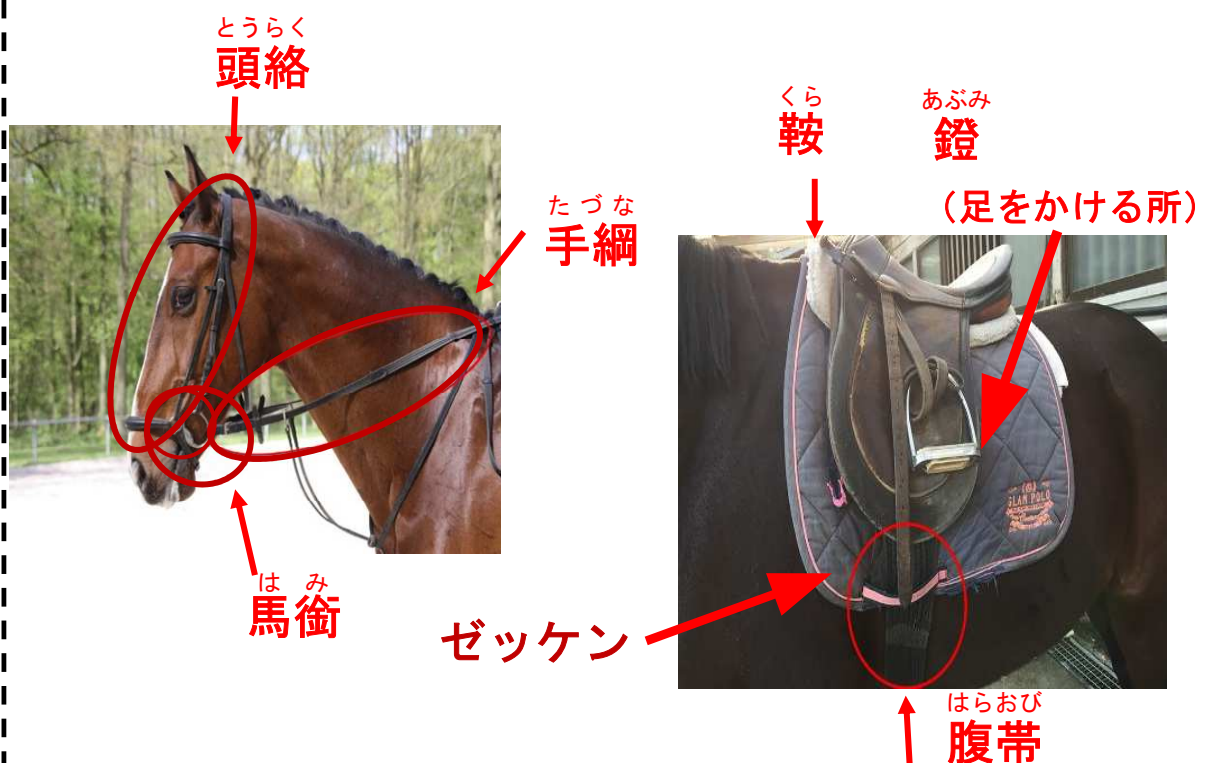
のです）をつけます。はらおび なんこめ あな と がね

めるかちゃんと覚えていて、しっかりがんばりました。鞍と

はみ たづな はみ たづな お かお ほう  
馬銜と手綱をつけました。馬銜と手綱が落ちないように顔の方

まわ とうらく  
に回って「頭絡」をつけます。

### ★乗馬をするための馬具の説明



みみ はさ けいと ばぐ  
耳とおでこを挟むようにつけます。桂人くんは、どの馬具も、  
じぶん も だい のぼ じぶん  
自分で持ってきて台に登って、自分でつけました。

さいご きびはら てんけん つぎ けいと  
最後に黍原さんが、ゆるみがないか点検しました。次に桂人く  
んの乗馬の準備です。ヘルメットをかぶり、黍原さんのもと

はし じゅんぴかんりょう うま ご や  
へ走り、カチンととめてもらいました。準備完了！！馬小屋  
からパドックへ、けいと たづな ひ ば い  
桂人くんが手綱を引っ張って行きます。そこ  
でやっと乗馬できます。だい うえ じょうず うま の  
台の上から上手に馬に乗りました。

ま けいと うま の きびはら ひ うま  
あっという間に、桂人くんが馬に乗って、黍原さんが引き馬を  
そと で い こうどう さんぽ り え  
して、外に出て行きました。公道をお散歩です。理枝さんが、

ばふん どうぐ うし もど  
馬糞をひろう道具をしょって後ろにつきました。すぐ戻ってく  
るのかと思ったら、よこみち はい み  
横道に入り見えなくなりました。しばらく

はし わた む がわ どうろ ある み  
すると橋を渡って向かい側の道路を歩いているのが見えまし  
た。くるま とお みち よこみち はい ぶん ちいき  
車の通り道はさけ、横道に入り、20分くらいかけて地域

しゅうらく なか さんぽ もど ま  
の集落の中をお散歩します。戻ってくるまで、待っていたか  
ったのですが、くら  
暗くなってくるので、ここまで、しゅざい  
取材を

しゅうりょう  
終了しました。

